



# 第47号

2019年2月1日

# 幸樹

こう じゅ



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵・井上 忠司 愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングの魅力に夢中になり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

## 第19回地域交流カフェ

# 餅つき大会 &

## 紙芝居「まつと昔ぼなし」

### 2月19日（火）

●11:00～餅つき大会、幸樹会館駐車場

●13:00～紙芝居、さんしょうリビング

●参加自由、ふるってご参加ください！



# 「訪問型元気応援サービス」を活用して

## ご近所同士で 助け合い、交流を 楽しんでいます

ケアステーションゆず（訪問介護）は、「松戸市訪問型元気応援サービス」事業者に選定され、昨年4月から事業を開始しています。

「元気応援サービス」は、介護保険制度の改定で市町村が独自に行う総合事業（介護予防・生活支援事業）として始まったものです。利用者は要支援や事業対象者と認定された方、サービスの実施は社会的活動への参加を志す高齢者等が担っています。

この「訪問型元気応援サービス」のご利用者で常盤平に住む嘉瀬五郎（87歳）・貞子（85歳）さんご夫妻、サービス実施者の鈴木まち子さん（72歳）にお話をお聞きしました。

## 10回目の四国巡礼が夢

嘉瀬さんご夫妻は、五郎さんが都営交通の技師として定年を過ぎてもお仕事をされた後、お遍路さんとして四国88ヶ所を全て徒歩で巡ったそうです。しかも9回も！…。仏閣巡りに興味を持たれ、秩父や坂東の巡礼コース、京都のお寺のほとんどを巡られました。四国は徒歩だと2か月かかりますが、その間ずっとお二人で助け合いながら巡礼されました。

「もう帰る！」と喧嘩もあったけど、電車もバスもない山の中じゃ帰れなかったのよー」と大笑いされる貞子さん。足に大きなマメが出来ると、五郎さんが木綿針に赤チンをつけた糸でマメの中を通し、水を出すと糸に付いた赤チンが消毒してくれるので次の朝にはすっかり回復し元気に歩けたのだそうです。蛇や大きな蜘蛛にも遭遇、田んぼに落ちて真っ黒になったことも。「落っこちたら死ぬ」と思うような険しい道もあったそうです。

そのような体験から「お互いを思いやる気持や、他者との助け合いの気持が以前にも増して強くなった」と、お二人で笑い合いながら話されました。

家事も分担して生活されてきましたが、共に身体の自由が利かなくなり、お二人とも要支援2と認定され、介護サービスを利用されるようになり、昨年秋よりケアステーションゆずの「元気応援サービス」をご利用



左から嘉瀬五郎さん、貞子さん、右がサービス実施者の鈴木まち子さん

されています。週に2日「買い物」と「掃除」の訪問サービスを利用され、火曜日の「買い物」を鈴木まち子さんが担当しています。サービス実施者は、松戸市の基本研修を終了後に事業所に登録して活動します。

鈴木さんが嘉瀬さんのお近くにお住まいとのことと、サービス実施者としてお願いの声を掛けさせていただいたところ、快諾してくださいました。鈴木さんは長年障害者施設で調理のお仕事をされ、ボランティア経験も豊富で、とても心強い「助っ人」です。

お互いに「とても優しいお方だわ」「とても良く気が付いてくださるの」と明るい笑顔のコミュニケーションが続いています。

五郎さんは、今は自室で机に向って書き物をされていることが多いですが、常盤平小学校の児童の登下校を見守るボランティアを長いこと勤



五郎さんの折り紙

め、子どもたちに得意の「折り紙」を配るなどされていました。細かい作業の得意な五郎さんの作品は、とても精密です。貞子さんは、ニコニコ笑って楽しいお話や、編み物をされるなどして過ごされています。

「また四国巡礼に行きたいね」と話すご夫妻。

地域で支え合い助け合いを広げながら、10回目の四国巡礼の夢を実現できるよう、私たちも応援していきたいです。

（ケアステーションゆず所長・浅尾いずみ）

## 中学生が職場体験



白衣を着て、からたち薬局で職場体験記念撮影

### 体験活かして、なりたい自分見つけたい

1月16日、松戸市立第四中学校の2年生・西山れいみさん、園田桜世さん、南部優紀さん、戸田大惶さんの4名の生徒の皆さんが、からたち薬局と看多機さんしょうに職場体験に見えました。

からたち薬局では、お菓子で薬の包み方をやってみたり、ワセリンを軟膏つぼに入れる作業をしてみました。看多機さんしょうでは、食事前の「パタカラ体操」を一緒に行い、素敵な声で「ふるさと」「夏の思い出」などの合唱を聞かせてくれました。利用者の皆さんは、初々しい中学生の皆さんに温かい眼差しを向け、いつも元気な方も、物静かな方も、元気倍增、パタカラ体操の効果も大幅アップ、食欲も増していました。

一緒に昼食を食べた後は大量の食器の片づけに大活躍の中学生。レクレーションでも卓球や塗り絵をして交流しました。

感想文では、「貴重な体験で楽しかった」「皆さんのような大人に近づきたい」「このような仕事に関わる職業に就きたい」「人と触れ合うような仕事をしたい」等の感想が述べられていました。

後日、先生と生徒の皆さんから礼状が届きました。生徒からは「緊張感と笑顔の大切さを学んだ」「患者と向き合って接する大切さを知った」「今回の職場体験を活かして、自分の本当になりたい将来の夢を考えて見つけていきたい」等と書かれていました。学校側からも、「戻ってきた時のなんともいえない満足した明るい表情から、すばらしい体験をさせていただいたと実感…、地域と学校の連携、そして地域に育てられる青少年という観点からも非常に有意義な活動だった」というお手紙をいただきました。私たちも、これから



卓球で老若対決



看護・介護の話聞く

の社会を担っていく中学生に何か心に残ることがあったのならば、本当に嬉しいと思います。幸樹会としても、生徒の皆さんが成長されることを楽しみにしています。

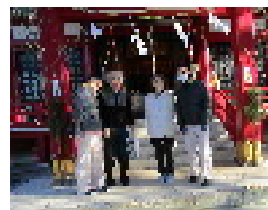
(代表理事・中野三代子)

## さんしょうのお正月

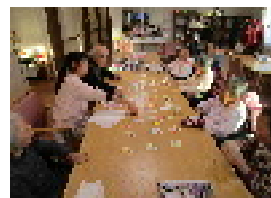
おせち作り



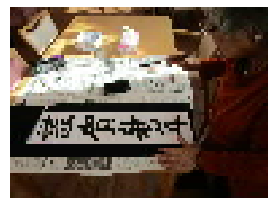
初詣



かるた



書初め



薬剤師

の

こころ

### からたち薬局・薬剤師 有木 祐里

薬局に処方箋を出すと、「お薬手帳はお持ちですか?」と聞かれることが多くなりましたよね。

薬剤師は、お薬手帳から現在飲まれている薬を確認し、処方された薬との飲み合わせに問題がないか、重複していないか等をチェックして、副作用発現等の健康被害が起こらないようにしています。お薬手帳には過去の副作用歴やアレルギーを記入する欄もあって、ご自身で記入されている方もいて、処方された薬の中に、以前副作用を起こした薬と同じ成分の薬が含まれていないか等を確認することもできます。ふだんの医療介護連携でも情報共有の重要な役割を果たします。

### 「お薬手帳」を健康管理に役立てましょう

お薬手帳が重視されるようになったのは、東日本大震災後。自宅も医療機関も被災し、飲んでる薬の名前がわからず、大変な思いをされた方が多数いらっしゃいました。その教訓から、国が再発防止策として、お薬手帳の活用に力を入れるようになったのです。

「外出時にお薬手帳は荷物」「お薬手帳を持ってくるのを忘れてしまった」との声をよく耳にします。その通りかもしれませんが、今後、いつ、どこで災害や事故に巻き込まれるかわかりません。お薬手帳を常に持ち歩くことは、自分を守る一つの手段となるのではないのでしょうか。そして、同じ薬局へ半年以内に処方箋と一緒に薬を持参すると、わずかですがお会計が安くなるという利点もあります。是非、お薬手帳をご自身の健康管理ために活用してみませんか。





## デンマーク便り...⑬

ラスムッセン 京子

デンマークでは、出産は医療と見なされているので当然妊娠出産にかかわる診療や入院は無料です。病院で出産すると翌日には退院します。その折に医師による母子の診察があります。

自宅でお産するとお産後すぐ助産師さんが硝酸の点眼をしたり、血液検査や体重身長を測ったりしてくれます。5日後にはかかりつけの一般医（家庭医）の所で新生児の診察が行われます。聴診器で心臓の鼓動や呼吸の音を聞き、腫の検査、股関節の検査などを受けます。超音波検査を受けることもあります。股関節が亜脱臼しているなどの疑いがある場合です。

さてお産後の新米両親は色々な疑問が沸くものです。お産後1週間目に保健婦さんの家庭訪問があります。ここで乳児の成長検査や母乳や粉ミルクの指導とともに、色々な質問を受けてくれます。

### ネット情報には“落とし穴”が

ティナさんも、保健婦さんの1週間目の訪問を受けた後、成長ぶりにとても喜んでいました。ところが2週間目の保健婦さんの訪問時



に、目線が赤ちゃんと合いましたかと聞かれて、未だですと話す中、“変ね、普通は生まれてすぐ会う子もいる”と言われたそうで、私に長男エスキルと目線があったのは何時ですかと聞いてきました。私が2か月半頃だったと思いますよと答えると、ホッとしました。私も、孫を抱いて陽の当たる窓際に行って瞳孔の大きさの変化をチェック、変化が見られたので視神経が光を感じていることは確認できました。

ネットで調べると、有料で育児相談を受けている保健婦が、“個人差はあるけれど2週間くらいになると目線が会うのが普通の成長過程”だと書いています。眼科学会と脳神経学会の資料を検討したところ、個人差はあるものの、目が見えていると確認できるのは2か月から2か月半を過ぎてから、中央から45度くらい30cmくらいの近距離にあるものを赤ちゃんが視線で追うことが出来るようになることで確認出来るそうです。この保健婦のサイトでは1か月約2000円を出し会員になると、無料で育児に関する質問をメールで受け付けるそうです。新米の母親の不安を煽り会員にすることは許されないのに、早速抗議しましたが、サイトの記述にその後何の変更もありません。

氾濫している情報を鵜呑みにせず、信用できる眼科学会等のサイトを見ることだと思いました。ネット情報には落とし穴がある事は、デンマークでも同じです。

## 第64回松戸市七草マラソンに参加

1月13日、今年も七草マラソンに、ランナー6人、応援団・スポーツファーマニスト活動の総勢10人が参加。初めて走った大橋麻子看護師の感想は、



「坂で少し歩いてしまいましたが、訪問している小児のお父さん・お母さんやプラスバンド、大塚さんの励ましなどで、5kmを走り切りました。今度は、私も励ます人になるぞ！」▲写真=あおぞら診療所の皆さんと

### 新入職員の紹介

看護師 村山 美穂

1月に入職しました。病棟で勤めてきて、以前より興味があった在宅の領域に進むこととしました。松戸に越してきて間もなく、慣れないことも多いですが、皆様に寄り添って生活の手助けができたらと思っております。精一杯成長していきますので、よろしくお願い致します。



### 八柱学習会

●前回報告1月18日(金)。助言者 武井幸穂氏 「医療的ケア児について」報告・中野三代子(代表理事)

参加者16人。医療的ケア児を守ろうと小児在宅診療で奮闘する前田浩利医師の活動を紹介したNHKハートネットの資料や動画を見た後、幸樹会の看護師・介護職員・ケアマネジャーが医療的ケア児の訪問活動の感想を述べあいました。元小学校教師の宮代喜代美さんが「教師時代のある時、障がいがある子が入学してきた。その時は、校長はじめ全教師が協力して受け入れ支援した。その結果、その子は小学校を無事卒業できたが、中学では1年で通学できなくなってしまった。そのころに比べると、学校看護師も配置され、医療や介護関係者のとりくみも随分前進してきていて感動です。誰かが実践し、訴えることによって制度はつくられていくのですよね」と語っていました。

▼次回学習会予定(「定例日:毎月第3金曜日」)

●2月15日(金)、18:30~、 「認知症実践者研修の報告」看護師・板垣信子 場所:幸樹会館2階会議室《参加自由》

## 職員募集! 非営利・働きがいある職場

看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり  
問い合わせ:本部中野まで、☎047-701-7550

今月の屋上太陽光発電量は、

647KW

幸樹会館電力使用量 6595KW 自給率 9.81%

